



今回は、2年4組 2 班による関中央病院でのフィールドワークの報告をします。

◇関中央病院を訪問し、ワクチンについて学びました！

日 時： 2018 年 8 月 3 日(金) 15:00 ~ 16:00

訪問先： 関中央病院

内 容： ワクチンについて

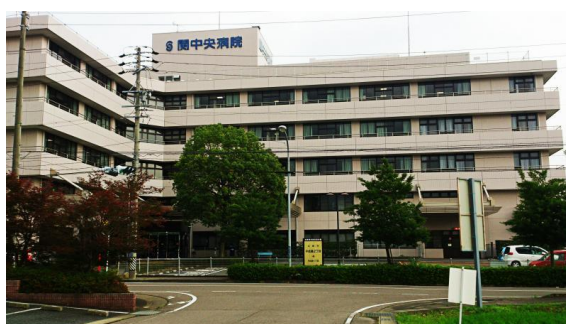
参加者： 兼村紗也加、塚原 健太、波多野 太一、羽田野 勇佑、古川 瑠莉、間宮 悠生、
村瀬 光洋

◇ワクチンとは何か

ワクチンは感染症の予防に用いる医薬品です。病原体から作られた無毒化あるいは弱毒化された抗原を投与することで体内に病原体に対する抗体産生を促し感染症に対する免疫を獲得するものです。

予防接種によって守られている命は年間 200 万人から 300 万人と推定されています。

関中央病院を訪問して看護師さんから話を聞く中で、ワクチンの使用理由や、保存方法などについて質問すると、ワクチンは使用期限が限られているということを知りました。そのため私たちが初めに考えていた途上国に余ったワクチンを届けるという支援を行うことができないことが分かりました。そこでより多くのワクチンを届けるためにはどうすればよいかを班内で話し合いました。



◇ 私たちの感想

このフィールドワークではワクチンを海外に届けるための手段を見つける有力な情報を得ることができず、残念でしたが、とてもいい経験になりました。しかしながら、病院の看護師さんからはワクチンの重要性を深く教わることができました。私たちが想像するよりもはるかに多くの命を、ワクチンで救うことができます。命を救うために私たちにできることはたくさんあります。例えば、家庭でのリサイクルを積極的に行い、ペットボトルを捨てる時にはキャップと分別するなどがあります。我々人間が想像することができることは必ず実現することができると思っています。だから、今はあまり効果が実感できていなくてもいつか必ずたくさんの人を救うきっかけになると信じています。



SDGsのロゴより

今回は、2年4組3班による関市役所フィールドワークの報告します。

◇関市役所を訪問し、環境対策活動について学びました！

日 時：2018年 7月31日(火) 10:00～11:30

訪問先：関市役所 市民環境部 生活環境課

内 容：環境対策活動に関する質疑応答

参加者：小山政人 篠田旺佑 三輪俊揮 長谷部涼 高橋幸志 松原琴音 松井愛里

◇COOL CHOICEとは何か？ ～関市における環境対策活動～

「COOL CHOICE」とは、2030年度までに温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のため、省エネ・低炭素型の製品への置換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという取り組みのことです。関市環境基本計画とCOOL CHOICEの目指すものと一致していたため、関市はこれに賛同しています。関市として行っている活動は、エコカーの試乗会やシンポジウム、COOL CHOICEのプロモーション活動、具体的には、「せき環境フェア」や年一度開かれる有識者を呼んだ「環境審議会」が行われています。これらに充てられる予算は主に補助金で300万円ほどです。この活動の意義は、人々に環境について「考えるきっかけ」を与えるということです。温室効果ガスの排出については、法律が定められており、企業や工場に排出量の管理を義務付けています。これにより平成26年から平成29年のあいだに25%の温室効果ガスが減少しました。

次に、COOL CHOICE以外の関市の環境への取り組みでは、エコ住宅、エコカーの普及をめざしています。市、県は税金を軽減しており、2017年には100から110件のエコ住宅の申請がありました。

また、電気自動車の利用を増やすため、電気スタンドの数も増やしています。地域単位での活動としては環境団体とも様々な活動を行っています。例えば、環境ネット、段ボールコンポストの設置、EM菌を使つてのプールの清掃を行うなど様々な活動があります。関ホテルの会では、ホテルの保全活動などを行っているそうです。ほかの公共団体や企業などと連携した活動として、美化運動や環境フェアなども行っています。

◇ 私たちの感想 ～これからの未来に向けて私たちにできること～

今、日本では、いろいろな取り組みによって、地球温暖化を防ごうとしています。COOL CHOICEもそのうちの一つです。私たちにできることはたくさんあります。例えば、エコカー、エコ住宅の利用、LED照明の利用、公共交通機関の利用、節電、節水、空調の温度、保全活動への参加、環境イベントへの参加などです。合言葉はMany a little makes a mickle.小さなことでも、多くの人が行えば、影響は大きくなります！皆さんも環境向上のため賢い選択をして持続可能な社会を形成する一人になりましょう！



SDGsのロゴより



今回は、2年4組4班による名古屋市科学館フィールドワークの報告します。

◇名古屋市科学館を訪問し、海について学びました！

日 時： 2018 年8月5日(日)11:00~14:30

訪問先： 名古屋市科学館

内 容： 海に関する情報収集

参加者： 高木晴渡、柴田雄至、吉田圭汰、長谷部壘、片岡幸大、長瀬峻

◇ 海面上昇とは何か？



海面上昇とは、地球温暖化が引き起こす温度の上昇によっておこる氷河の融解、それに伴う水温の上昇による海水の体積の膨張し、海水面が上昇することである。これにより、我々の住んでいる陸地が沈水し住む場所が減少したり、氷上に生息するホッキョクグマをはじめとした動物の生息域の減少を招く。

私たちは地球温暖化についての知識をより深くするために科学や地球について調べるために名古屋市科学館を訪れました。展示は詳しく解説などがされていましたがスペースが狭くあまり



り情報は得られませんでした。事前調査が不足していたため、効率よく情報をえられなかったので今後はしつ事前に準備をして取り組めるようにしたいです。

◇ 私たちの感想

私たちは、世界規模で起こっている海面上昇の問題に焦点を当てて、その原因を明確にし、解決策を模索しています。このフィールドワークでは、海面上昇に関する情報はあまり収集できず、残念でしたが、海というものがそもそも人間にとってどれほど大事なもののかが改めて分かりました。

これからの私たちの生活を守るためにも、海面上昇問題を少しでも解決に導けるような行動を心掛け、それを周りに広めていきたいと思います。



SDGsのロゴより

今回は、2年4組5班による中部学院大学国際交流・留学生センターフィールドワークの報告します。

◇中部学院大学を訪問し、留学生受け入れの制度について学びました！

日 時： 2018 年 8 月

訪問先： 中部学院大学(関市)

内 容：留学生の受け入れについて

参加者： 市原奈々加 伊縫萌花 立川真央

◇留学生を受け入れる大学の声～留学制度に関する課題



留学経験がなく、留学についての情報が少ない私たちにとって留学生の受け入れに関する課題を見つけることが困難でした。そこで、留学生を多数受け入れる中部学院大学の国際交流留学生センターの担当者の方に話を聞きました。担当者の方によると留学生の数は年々増えているものの他の先進国に比べると受け入れ人数が少ないというのが現状だそうです。その原因は日本の制度に問題があるのではという助言がありました。特に日本にしかないギャップタームが日本の留学生の受け入れを少なくしているのではないかと考えました。

また中部学院大学では積極的に留学生を受け入れておりまた受け入れるだけでなく受け入れ後のサポートも充実しておりこの写真は留学生の郡上旅行の様子です。このように受け入れだけでなくその後のサポートも大事だとおもいました。



◇ 私たちの感想

留学生に関する情報が少ない中、中部学院大学へフィールドワークに行けたことは私たちにとってとても有益なものになりました。実際に外国の方で日本で働いている方の話を聞いたり、色々な資料をみせてもらい、この課題に対する親近感や興味が深まったのでこれからも研究を続けていきたいです。



SDGsのロゴより

今回は、2年4組 6 班による福岡県の明善高校フィールドワークの報告をします。

◇福岡県の高校に電話し、昼寝について学びました！

日 時： 2018 年 7 月 13:00～

電話先： 福岡県 明善高校

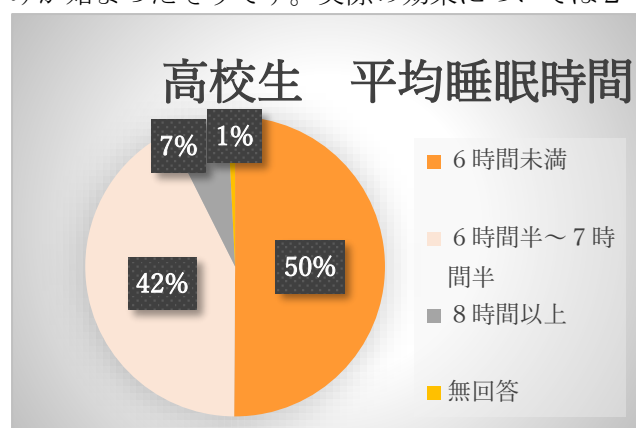
内 容： 昼休み後の昼寝の取り組みについて

参加者： 井戸陽太 大野結規 尾関佑紀 加藤優奈 栗山弥月 佐藤樹梨 福地海都

◇昼寝の効果について



明善高校では午後に昼寝を取り入れる「午睡」を一時期行っていました。私たちは、その午睡の効果について話を伺いました。明善高校では昼休みの13時15分から13時30分までの15分間を（午睡タイム）と位置づけBGMとしてモーツァルトの曲を流し、午睡を実施していました。午睡をする際は、基本的には各教室で机に伏せて眠るのですが、午睡室として5教室を設け、このうち2教室は女子生徒専用としました。午睡室には、低反発の枕も準備していたそうです。さらに、学校環境整備の一環として、廊下や玄関などに観葉植物も設置しました。グラフのように、高校生の平均睡眠時間が6時間未満の生徒が多数いたことや午前中に眠気を感じる生徒が明善高校では、78、8パーセントだったことがきっかけで午睡の取り組みが始まったそうです。実際の効果については2つの効果があったそうです。



1つめは、午後の授業での集中力が向上したことです。15分の昼寝は、2時間の夜の睡眠と同じくらいの効果があるといわれているそうです。2つ目の効果は、家での睡眠の質も向上したということです。夜の本来、眠る時間に眠気が来る生徒が多くなったという結果がありました。そのため、家での睡眠時間の確保がしやすくなったということになります。この昼寝と家での睡眠の循環が日々の生活で頭がすっきりして、授業を集中できることにつながっています。

◇ 私たちの感想

私たちは、昼寝をテーマに掲げ、活動をしてきました。今回のフィールドワークで明善高校では昼休みに昼寝を取り入れることで生徒の授業に対する意欲が高まり、学力も向上してきているということが分かりました。今回高校について調べているときに、世界の大企業でも昼寝が取り入れられているということもわかりました。場所や年齢を問わず昼寝の効果は絶大で、私たちも同じような活動をすればより良い生活が送れるのではないかと思います。昼寝のような小さな取り組みでも、積み重なれば世界レベルで教育の向上が図れると私たちは思います。

SDGsのロゴより

